

乳児の情動表出への着目を意図した介入による保育士の変容の検討

立命館大学大学院

応用人間科学研究科

対人援助学領域

発達・福祉臨床クラスター

荒川正嗣

キーワード：乳児の情動表出：情動調律：介入による意識の変容

本研究では、D.N.スターンの情動調律という概念を用い、保育園で働く保育士の乳児の情動に対する視点を、第三者が介入することで如何に変化するのかをみるものである。保育士は、普段の保育の中で意識せずに乳児との間で情動調律を行っている。そこで、第三者が情動調律という概念を保育士に教示することで情動調律を意識化し、この介入以後乳児に対する保育士の着目が乳児の情動表出及び情動調律へとどのような変化をするのか考察する。

方法は、まず筆者が用意した情動調律が観察されるビデオを保育士が2回見て、それぞれ2回観察記録を書く。1回目と2回目の間に筆者が情動調律とはどういうことかを保育士に説明をする。この筆者の介入によって、1回目と2回目の観察記録の記述内容の差異を分析する。分析の仕方は、まず観察記録に書かれた文章から情動調律への着目の数的な変化を考察し、更に保育士それぞれの異なる変化をインタビューを行うことで変化の質的な分析を行い、考察する。

本研究により、第三者が介入することで保育士が情動調律を意識化することができ、今まで意識的に見ていなかった乳児の情動表出及び情動調律に着目するように変化したということが数的な検証の結果明らかにされ、また変化の質を分析することで、個々の変容の差異を分析することができた。